

議会定例会

今年度の藤里町の「米の生産の目安」は、

2,226ト、406.20畝

6月議会定例会が6月11日から4日間にわたり開催されました。議案等が審議され、報告2件、原案承認2件、原案可決14件、不採択1件となりました。



行政報告

◆農業振興関係について

農業振興関係であります。例年にな、暖冬少雪でありましたが、稲作作業においては、ほぼ例年どおりの進み具合となりました。

水不足の懸念もありましたが、5月上旬からの降雨により解消された感じがしております。

田植えそのものは5月末現在で町内全域において、ほぼ完了しております。今

後は、天候等を考慮した適切な水管理により茎数の確保が図られるように、山本地域振興局農業振興普及課、JA営農センターと連携しながら、情報提供に努めてまいります。

今年度の藤里町の「米の生産の目安」は、2,226トン、406.20ヘクタールですが、これに対する実際の主食用米水稲の作付けは2,288トン、417ヘクタールとなり生産の目安より増加する見込みであります。

昨年の猛暑の影響で、米の出回り量が下振れしたことや、インバウンドの増加、人流の回復が相まった事などにより需給が逼迫し、令和6年6月末の民間在庫量が、米の価格が安定する水準（180万トン）を下まわる事が予想されていることから、相対取引価格が上昇しております。

このような状況であることから、当町の飼料用米の作付けは、26ヘクタール、また、新たな取り組みとして飼料用稲のホールクロップサイレージを9ヘクタール作付したところですが、全体の飼料用

途としては、前年の53ヘクタールから18ヘクタールの減となるものであります。国が示している主食用米から大豆等戦略作物、高収益作物への転換指導には、対応しきれていない状況にありますが、今後は水田活用の直接支払交付金事業の厳格化並びに、水田の畑地化に関する支援事業を見定め、矢坂上野地区のほ場整備地区でのメガ団地整備も含めた高収益作物栽培の推奨に努めてまいります。

リンドウにつきましては、例年より、生育がすすんでおり、2週間程度早い状況であります。今後は、気象状態を注視しながら、良好な生育を維持できるように情報発信をしてまいりたいと考えておりますし、現在、市場で、花卉全般が高値で取引されており、リンドウも乗じていけるのではと予想されております。

今後の対策として、最も需要が多くなり、市場価格が向上になる時期を狙って出荷のピークを合わせるような情報提供を行ってまいりたいと考えております。

次に、町営大野岱放牧場での緬羊の出生頭数であります。5月末日現在で140頭となっております。出荷については、ラム、ホゲット、マトンとも昨年度

と同数を計画しており、町内消費も含めた新しい販路の開拓を視野にいれた、販売体制の整備を図ってまいります。

4年目を迎える新規就農者の緬羊飼育事業については、導入した緬羊の生育並びに出生状況も順調であり、本格的な出荷体制を整えるべく必要に応じて支援をしてまいります。

町営大野岱放牧場は、昨年度から開牧時期を早める条例改正をしております。今年度につきましては、草地の状況等を考慮し、例年どおり5月1日の牧場開きといたしました。放牧頭数は100頭ほどになっておりますが、今後も草地の状況を確認しつつ、放牧牧区の移動をしながら、受入家畜に事故のないように努めてまいります。

今年度の子牛市場は、前年に引き続き、飼料価格、燃油価格の高騰などから、肥育農家の子牛購入を安価に抑えようとする動きが顕著に表れており、4、5月市場では、例年比で1頭当たり平均10万円ほどの価格下落となっております。

また、物価高騰は、繁殖牛育成の経費についても影響を及ぼしており、繁殖農家の経営を二重に圧迫しております。

先般、国が打ち出した子牛価格の下落に対する令和4・5年度出荷分の減収に対する交付金事業においては、当町で飼育されている黒毛和種は対象種になっていないことから、町が独自に支援をしていかなければならない状況下にあります。が、町営放牧場の開放期間の延長や、乾草置場建設により安価な乾草を畜産農家に供給する事業の実施は、畜産農家の経